

右十二色は疾中稻にして、いづれも上白米也、早稻の次に出る、

一内藏 一今大塔 一上蜆毛 一小法師 一晚饗膳 一大とご 一半毛 一白我社

一清水法師 一定法師 一小けば 一大兒

右合十二品いづれも上米にて、早稻疾中晚中稻と順々に植、又其ごとく熟する也、雖然上農下農の替り有て、前も後に成事有、三月始に種子を蒔、四月末に植て、八月末に刈取分、

〔耕稼春秋〕石川郡稻名略

中稻

ちく 石立彌六 礪波彌六 小崎 小彌六 赤彌六 藤四郎 三七餅 稻泉 小白

柏野田 大佛餅 雀しらす 若狹彌六 大彌六 矢筈彌六 太郎兵衛餅 京はやり

はな打 唐千餅

〔曾根好忠集〕七月中

我まもるなかけての稻ものきは落てむらく、ほさき出にけらしも

〔類聚名義抄〕晚稻

〔下學集〕晚稻

〔易林本節用集〕晚稻

〔書言字考節用集〕晚稻

〔和爾雅〕晚稻

〔八雲御抄〕田

〔藻鹽草〕田

をしねおそ おくて同上、又云、おくと、